

は、三笠山のものと同じで、同時代のものと思はれ、以前噴出に係る凝灰岩は、北麓にドンズリポーの奇景を呈して居る、雲母安山岩は讃岐國高松附近にあるものと聯關して、東西の分布を爲し、遙かに九州の北部、福岡縣八女郡日向見、及び佐賀縣武雄の南、御船山に於けるものと相呼應して居る、この雲母安山岩中には柘榴石の細晶を含み、穴蟲より春日に至る間に於て

ジオグラフィカルプロビンスに就て

上 治 寅 次 郎

人類の活動は、多少の例外はあるにしても、其の土地の地勢・氣候・天産其の他種々の地理的現象に多大の影響を受けつゝあることは何人も疑はない處であらう。そこで、地理的環境の類似する地を限つて一區域とし、其の區域の自然的狀況を探究し、其の人類活動に ぼす關係を

處々に淘汰採取せる金剛砂は、此岩石の分解せる砂礫中より柘榴石を選取するものである。柘榴石は⁽²¹¹⁾の結晶が多く⁽¹¹⁰⁾は少ない、鐵と礬土とを多く含み苦土と石灰は少ない、其大きによりて用途を異にし、穴蟲村の吉川工場に於ては、碎砂機を運轉し、十種に分ちて販賣せり、従業員約二百人、毎月の産額約十萬斤に上るといふ。

究め、以て地方的特色を詳にすることは、地理學研究、特に地方誌の研究に於ては、極めて重要なことゝ信ずる。地理的環境の類似によつてなされた區劃、即ち地理的地方 Geographical province はその性質上、政治區劃の如く境界を明瞭に示すことは困難であるが、彼の如く屢々

變動するものでないから、其の研究の進むにつれて自然界と人類活動とに動かすべからざる關係の存在することを認め得べく、斯學の科學的價值と研究者の趣味とを一層深甚ならしめることと思はれる。これは從來動もすると斷片的事項の記載に傾き、無趣味な記憶的學科として取扱はれ易かつた地理學とは大いに趣を異にする處であつて、若し地理的處所の科學的研究が十分進歩して來れば地理學研究上に於て確に一轉機を劃し得ることと思ふ。

英國オックスフォードのハバートソン A. J. Herbertson 氏は、全世界を五區域とし、更に特有なる二十地方を代表的に選擇して各區域の特色并に選擇された地方の自然人文上の特色を極めて簡明、有益に説述してゐる。

一、寒帶區、(1)ユーラシヤ北部・北米北部の如き低地(ツンドラ式)、(2)ノルウエー・カムチヤツカ・ユーコン地方(寒帶高原式)、(3)グリーンランドの如く四時氷雪に蔽はれたる高原(グリーンランド式)。

二、冷涼温帶區、(1)ユーラシヤの西部(ヨーロッパ式)、(2)北米の東部(セントローレンス式)(3)内陸低原(南部シベリヤ式)、(4)内陸高原(アルタイ式)、(5)著しく隆起せる地(西藏高原式)。

三、温暖温帶區、(1)ユーラシヤ西南部(地中海沿岸式)、(2)同東部支那式、(3)内陸低地(ツラン低地式)、(4)内陸高原(イラン高原式)、(5)内陸に於て特に寒冷なる冬を有する地(蒙古高原式)。

四、乾燥、夏季多濕熱帶區、(1)アフリカ西北部(サハラ式)、(2)アジャの東部・南部(季節風帶式)、(3)アフリカ内部(スタン式)、(4)アフリカ東部高原(アフリカ東部高原式)、(5)エクアドル高原地方(エクアドル高原式)。

五、温熱多濕赤道區、(1)赤道地方多濕の低地(アマゾン式)、(2)赤道地方の山地(マライ諸島式)。

以上は代表的にあげられたのであつて、ハバートソン氏によれば其の他の地方は大凡上記分類の何れかに比較し得るといふのである。例へ

ば西部ヨーロッパに類する地方を北米の西北海岸に見、地中海沿岸式の地方をアフリカ西南部及ニュージールランドに見、サハラ式の地方をアラビヤ・オーストラリアに見る如きこれである。吾人は自然的状況の類似せる地方は人文活動にも類似の點を見るが、同時に、又、地方的に異つた特色をも認めるのであつて、地方誌研究の興味を一層深かゝらしめるのである。

我が國は溫暖溫帶區中のユーラシヤ東部、即ち支那式の中に含められてゐる。溫暖溫帶區は北半球に於ては地中海沿岸地方・ツラン低地・イラン地方・蒙古高原地方から、支那を経て太平洋に連り、只アジア洲の西南部に於て世界最熱の地域によつて一部分切斷されるのみである。北米の南部・南米・濠洲・阿弗利加に於てもこの區域が存在する。溫暖溫帶區の特徴は、冷涼溫帶區に比して、暑き夏と温かき冬とを有し、高地とか内陸とかによつて寒暑の差の峻烈な地もある。雨量は季節によつて多い時期と少ない時期とあるが、概して西部に於ては冬季に、東部に

於ては夏季に多雨、内陸は常に雨量に乏しい。農産は種類に富むが、冷涼溫帶區に於て小麦の多かつたに比して、この區域に玉蜀黍・黍・稻が盛んに耕作されるに至り、熱き地方では纖維植物として棉は最も重要な農産で、生糸は桑樹の生育する地方の特産である、高地には牧畜が行はれて羊毛其の他獸毛を供給し、果樹は各地に栽培され葡萄・柑橘・無花果其の他果物の種類も多い。橄欖の如く油を採る植物もその種類に富んでゐる。此區域は地方的特殊な影響の爲に更に地中海沿岸式・支那式・ツラン式・イラン式・蒙古高原式の五種の代表的地方に分ち得る事は上述の通であつて、地球上古くから文明の發達した地方を包括してゐる。この中、支那式と稱するは、概して大陸性氣候を有し、夏冬に於ける氣温の較差稍大に、夏季は雨量に富む。森林中には胡桃を見、下生植物には常緑のもの多く、地中海沿岸の倭林を思はしめる。北方には早穀として穀物・豆類が生育し、夏季には甘蔗・藍・稻棉の生育をも見る。茶は降雨多き南方に、更に南

には香蕉も多く其他熱帶植物を増し、譽子、粟、桑はこの地方に廣く分布する。北米のミシシッピ川の東方より大西洋岸にかけて、これに似た地方があつて玉蜀黍・煙草・棉・稻を産し、アフリカ洲のナタール州、ケープ州の東部、濠洲のニューサウスウェールズ州の東部、クイーンズランド州の南部等もこれに屬する。これ等南半球各地の冬季は北半球のそれよりも暖く、内陸に入るにつれて雨量減じ、支那及び北米にては、北方よりも南方が農産の收穫を増す傾向がある。我が國はこの地方に屬してゐるが、アジア大陸とは海を以て隔てらるゝこと、列島は幅せまく南北に長く延長すること、垂直并に水平肢節の複雑なること、季節風の影響等によつて各地それぞれ、地方的に異つてゐる。即ち小麥を主要農産とする北海道の如きは冷涼溫帶區に屬すべく一年二回の米收、甘蔗の栽培、香蕉其の他の熱帶性果實に富む臺灣は熱帶區に屬すべく、本州中、その幅員の最大なる甲信地方の如きは稍々乾燥で葡萄・柿其の他胡桃・栗等の乾果に富み、

地中海地方の果實を髣髴せしめ、この地方には關東、濃尾等の平野に見る如き多肉の野菜に乏しきは氣候の關係によるべく、南信地方は古來名古屋方面と經濟的に緊密なる關係を有するは勿論であるが、近來交通の發達と共に東京の商品と大阪の商品とに互に販路の爭奪が行はれ、烈しい經濟戰の行はれつゝあるは、單に信濃が地形上に於て東西の分水界をなすのみならず、經濟上に於ても分水界たることを意味するものであつてこれ等は自然人文上に於けるこの地方の一特色と稱すべきであらう。

以上は地理的地方について略述したのであるが、周到なる研究によつて、地理的地方を確立し、我が國の地誌研究をして漸次に科學的に其の歩を進めしめることは、日本の地理學界前途のために、地學に志すの士によつて、是非開拓されて行かねばならぬ所であると信ずる。(完)